

(公財)国際港湾協会協力財団
2020年度 国際港湾経営研修

サバンナ港における港湾経営と戦略

横浜港埠頭株式会社
高松 由彦



目次

1. サバナナ港の概要

2. サバナナ港の経営の特徴

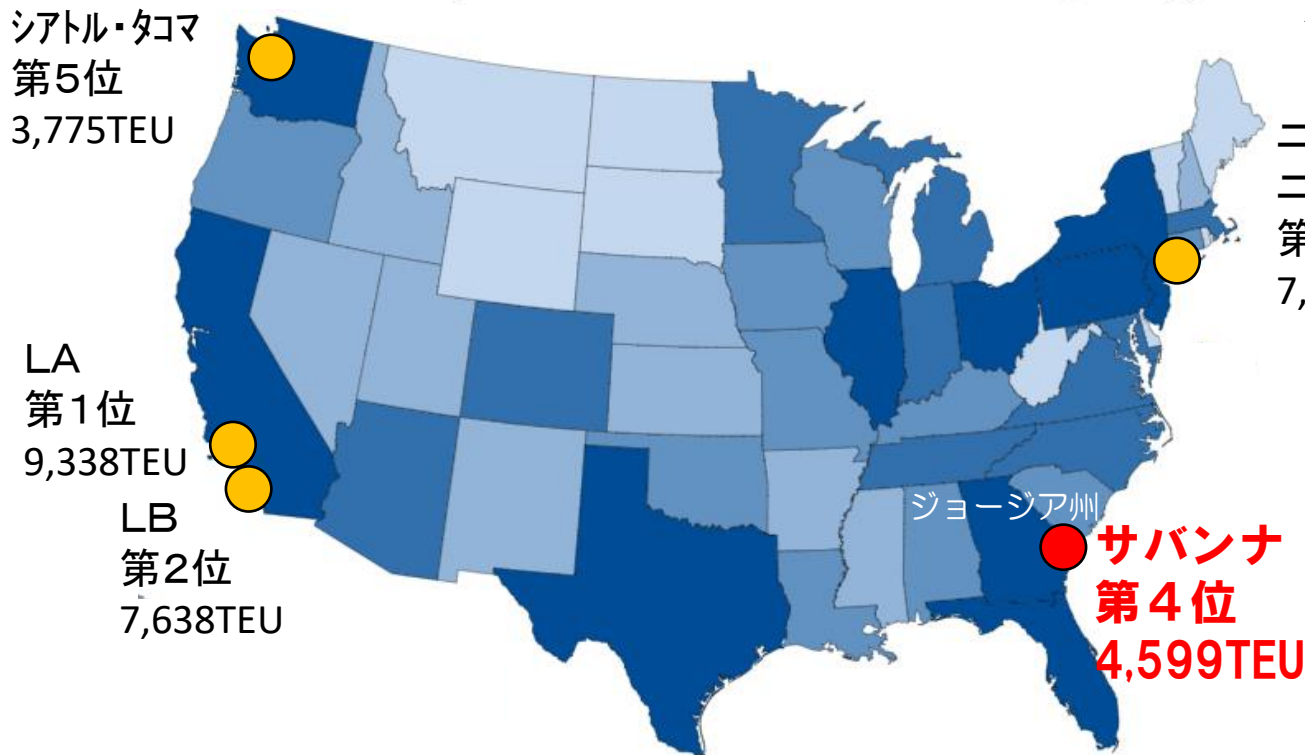
3. コンテナ港湾機能をめぐる戦略的取組

4. 考察

サバンナ港の位置

United States, Real Gross Domestic Product (GDP), 2019

<出典> GDP : U.S. Bureau of Economic Analysis (BEA)
 貨物取扱量 : American Association of Port Authority



Source: BEA | U.S.=19,091,662.0

※各港の取扱量・北米港湾の順位は2019年実績値

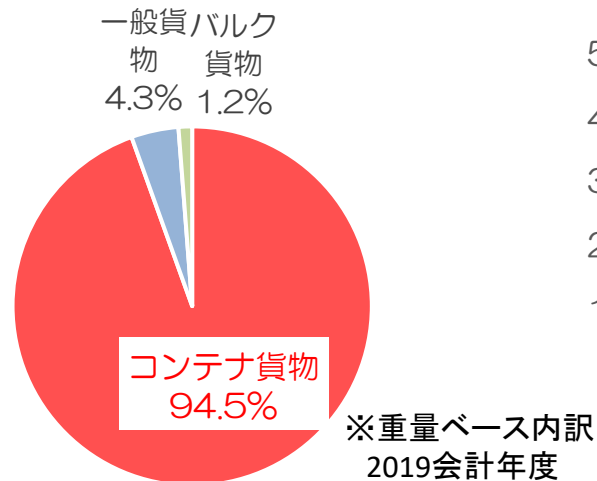
■ 519,961.7 to 2,800,505.4 ■ 308,044.8 to 519,961.6 ■ 168,792.8 to 308,044.7 ■ 72,340.5 to 168,792.7 ■ 29,806.2 to 72,340.4



アメリカ南東部の主要港湾として機能している

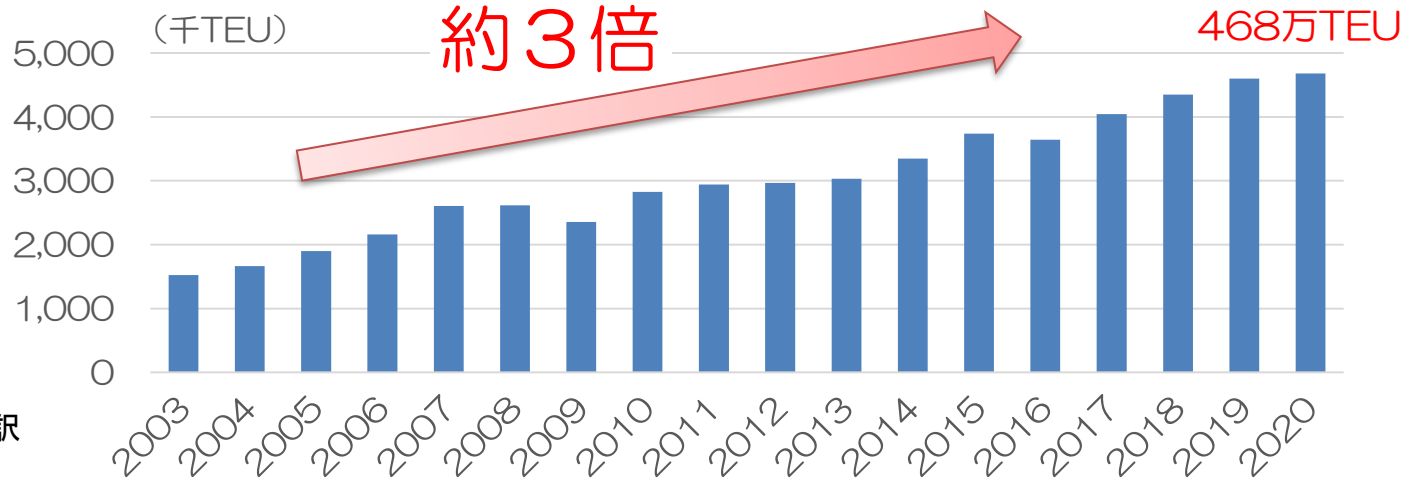
港勢

荷姿別貨物量

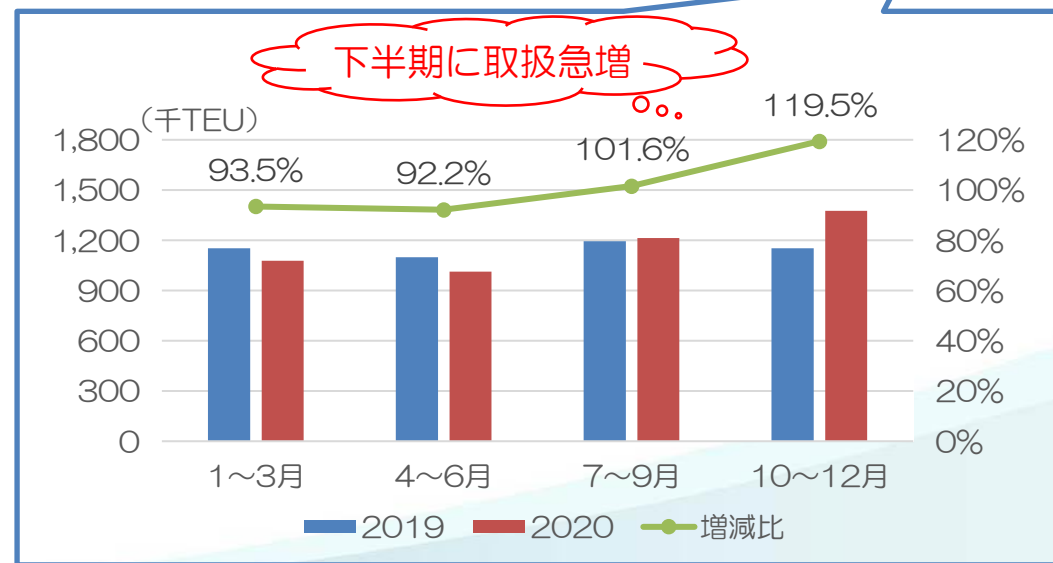
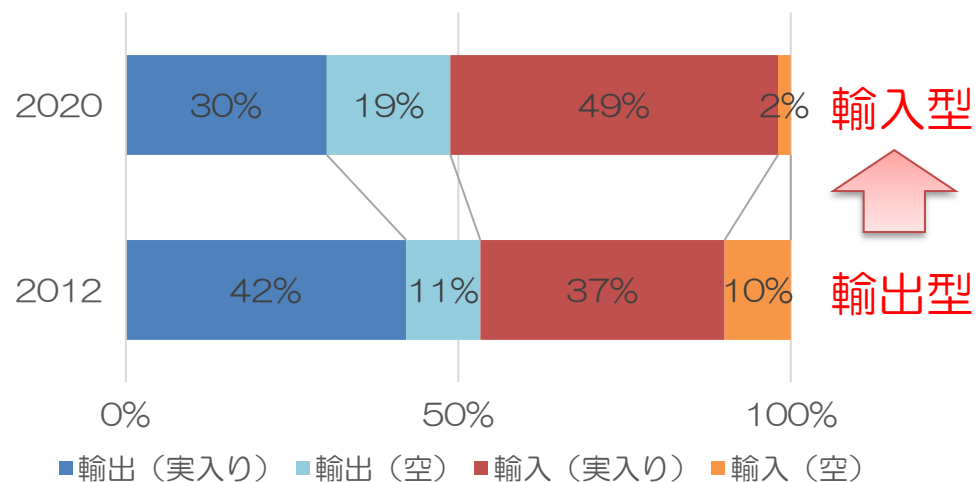


コンテナ貨物量の推移

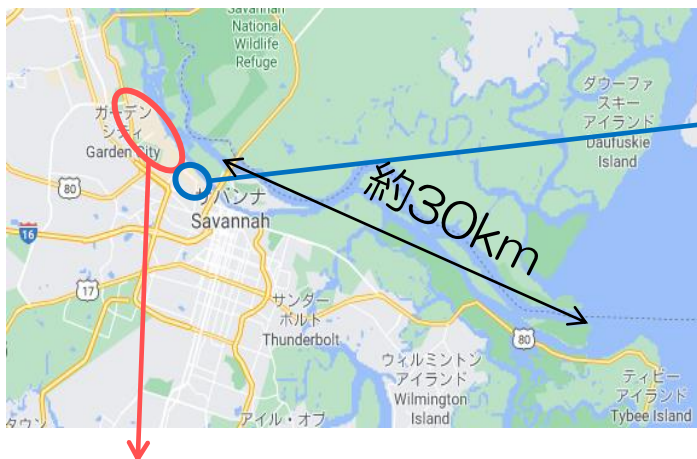
<資料>ジョージア港湾局ホームページ



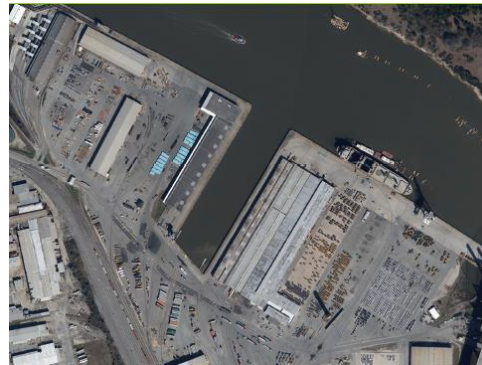
出入別貨物量



主要施設概要



オーシャンターミナル (OT)



- 取扱貨物：バルク、RORO、コンテナ、重量物 等
- 岸壁延長：152m
- 面積：81ha
- 水深：12.8m~14.6m

ガーデンシティターミナル (GCT)



- 取扱貨物：コンテナ
- 岸壁延長：2,955m (全9バース)
- 面積：485.6ha
- 水深：12.8m~14.6m
- G C：36基 (うち、24列対応30基)
- R T G：146基

経営体制・経営状況

港湾管理者	ジョージア港湾局 (GPA)
設立年	1945年
意思決定機関	港湾理事会
管理港湾	サバナナ港 ブルンスウィック港 ベインブリッジ港 コロンバス港
運営形態	運営型港湾 (Service Port)
財政状況 ※	総資産 18.3億ドル (自己資本比率約90%) 負債 1.6億ドル
収支状況 ※	営業収入 4.7億ドル 営業利益 1.5億ドル (利益率約30%)



※ 2019年会計年度実績 (資料: Georgia Ports Authority Annual Report FY19)

サバンナ港の基本戦略

GPAの使命

加速する国際貿易に対して絶え間ない努力により、企業の活性化、産業の強化、地域の維持、及び組織の強化に資すること。

GPAの戦略 ロジスティクスハブ港湾の形成

- ✓ ロジスティクスパークの整備
 - 大手流通業の輸入センターを誘致を重視
 - ジョージア州の高いビジネス環境
- ✓ 利便性の高い交通インフラの活用
 - 米国大手鉄道会社2社が乗り入れ、内陸部への輸送が可能
 - 州際高速道路 (I-16, I-95) により東西南北の主要都市に接続
- ✓ サバンナ港の成長を支えるインフラ開発
 - 貨物量の増大や船舶の大型化への対応
 - 強みをより強化する施設整備



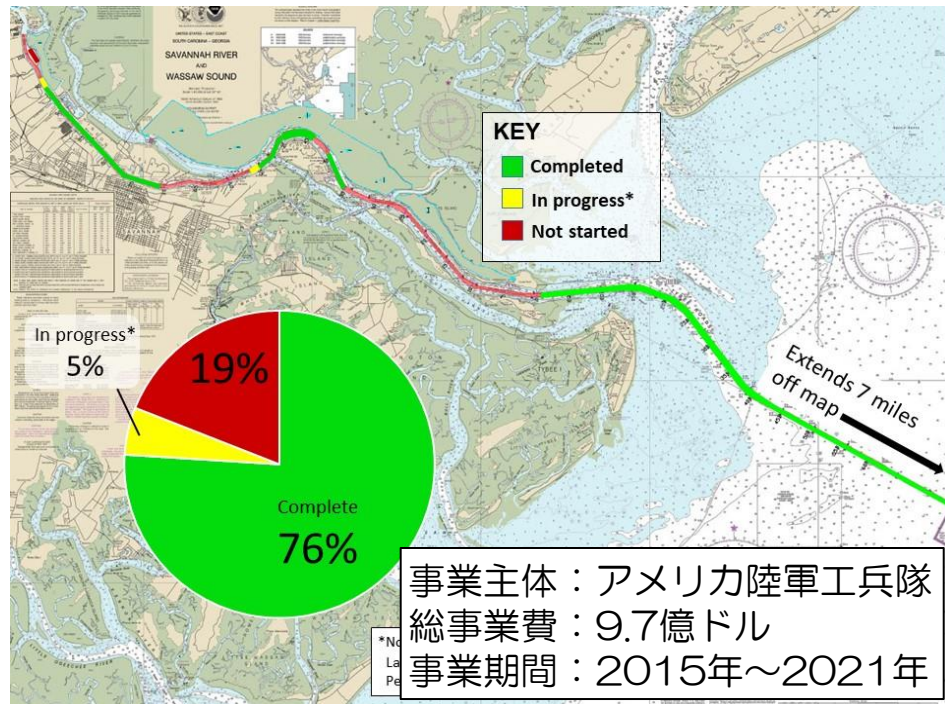
<出典> MASON MEGA RAILパンフレット

コンテナ船大型化への対応

- ✓ 世界的なコンテナ船大型化の進展
- ✓ パナマ運河の拡張（2016年6月完了）

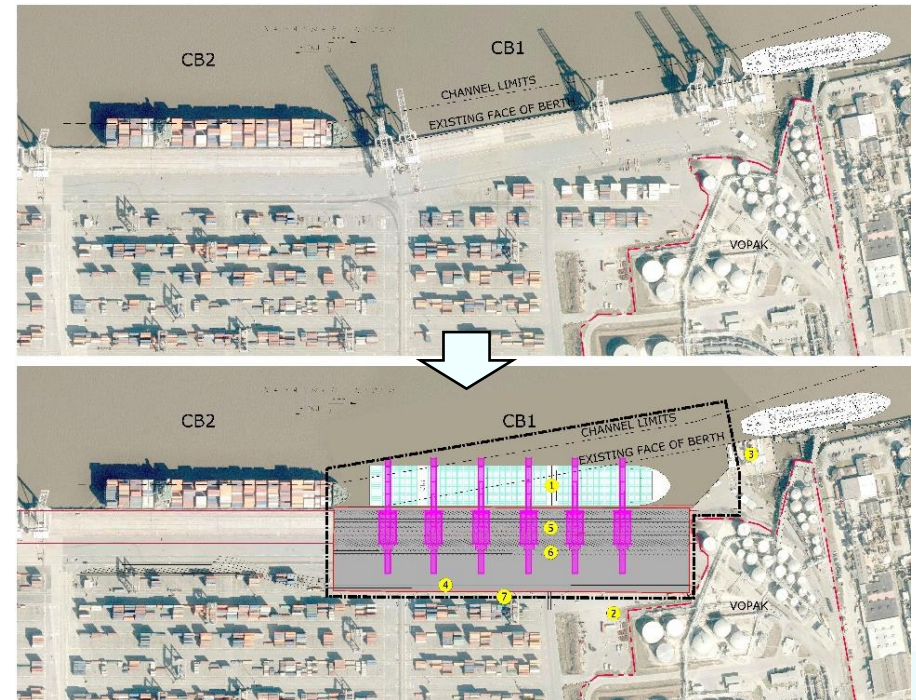
⇒ サバンナ港でも大型化への対応の必要あり

■ サバンナ航路拡張プロジェクト（SHEP）



⇒ 航路水深 12.8mから14.3mへ

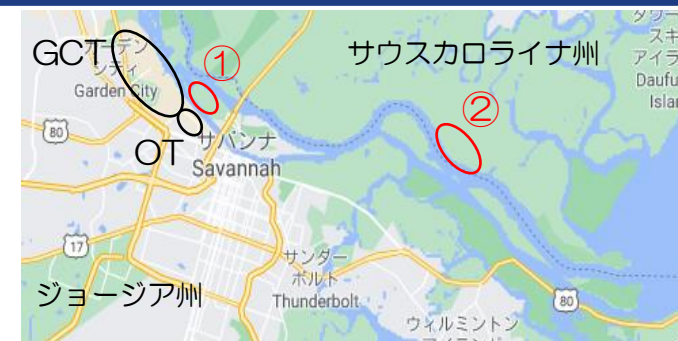
■ GCT（CB1バース）の改修



⇒ 15,000TEUクラスの
4隻着岸同時着岸が可能に

コンテナ貨物量増大への対応

- ✓ 急速な貨物量増大によりGCTが逼迫
 - ✓ 今後も更なる貨物量増大を見込む
- 2030年までに能力を900万TEUに増強



短期的対応（～2021年）

- GCTの背後ヤード拡張（+100万TEU）
- OTの一部機能転換



敷地面積：約6ha
取扱能力：22.5万TEU
バース数：1バース

中期的対応（2025年頃）

- 新規ターミナルの整備（ハッチンソン島）

※位置：①



敷地面積：約80ha
取扱能力：250万TEU
バース数：3バース

長期的対応（2030年代～）

- 新規ターミナルの整備（ジャスパーオーシャンターミナル）

※位置：②



敷地面積：約600ha
取扱能力：800万TEU
バース数：8バース

背後圏とのアクセス性向上（オンドック鉄道ターミナル）

- ✓ 熾烈な内陸部の貨物獲得競争
- ✓ サバンナ港利用者の更なる効率化

➡ GCTから高速道路・鉄道への接続性を高める

2つのオンドック鉄道ターミナルの接続



Mason Mega Rail yardの拡張



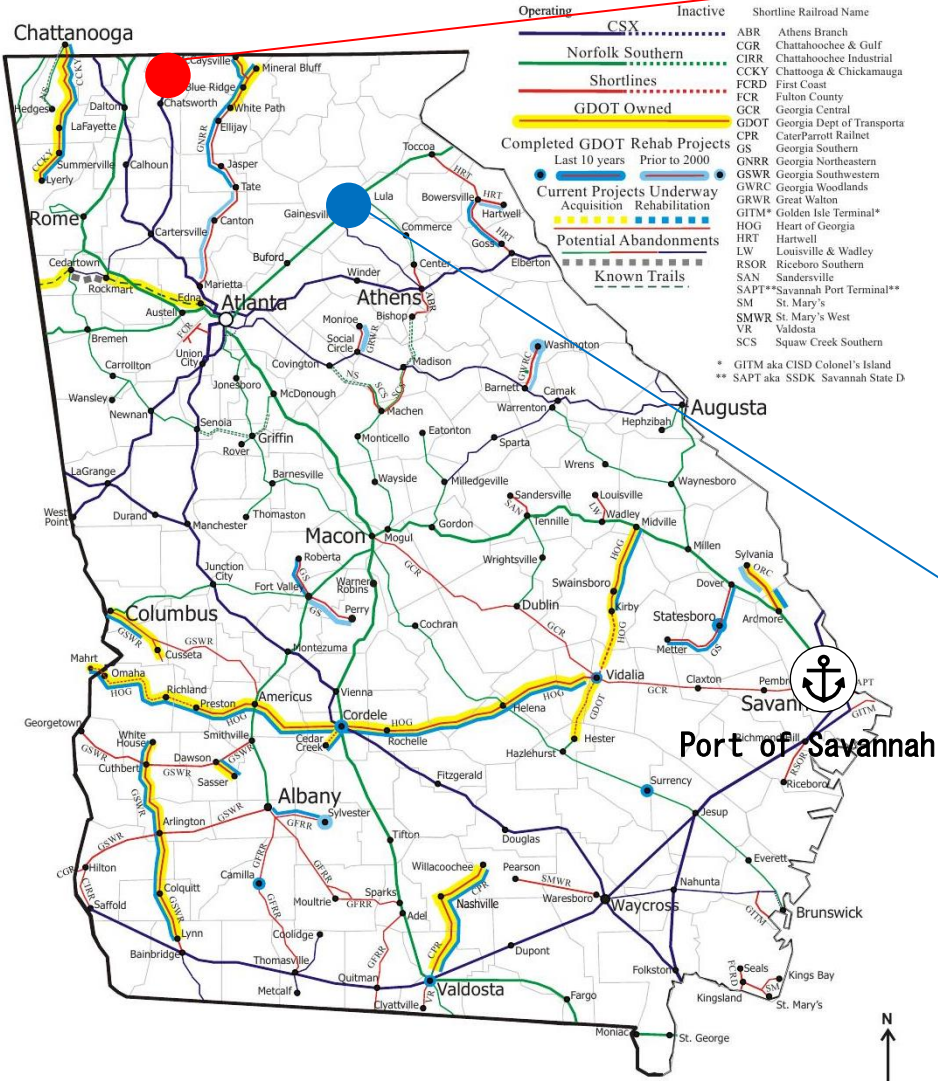
■ MASON MEGA RAILプロジェクト



⇒ 鉄道ターミナルの処理能力を2倍に
(年間200万TEU)

背後圏とのアクセス性向上（インランドポートの整備）

Appalachian Regional Port



運営者・所有者	GPA
面積	17ha
荷役機械	eRTG 3基
供用開始	2018年

Northeast Georgia Inland Port



考察

✓ 荷主企業へのアプローチによるポートセールスの実施

大手流通業の輸入センターを誘致し、安定的な貨物量・収入を確保

内陸部の貨物獲得競争へ（リードタイムの短さをアピール）

➡ 荷主にとって魅力的な港づくりを目指すべき

（例：情報のプラットフォームの整備、アジアシャトル航路の誘致 等）

✓ サプライチェーン全体を踏まえた施策や施設整備

強みである鉄道輸送の強化する施設整備をGPAが実施

➡ 港湾区域外であっても港湾施策としてサプライチェーン全体を効率化する取組を進めていくべき

（例：インランドポートの整備・連携、鉄道輸送の効率化・利用促進 等）

✓ 港湾運営会社主導によるプロジェクトの推進

MASON MEGA RAILプロジェクトでは、GPAが主導して、州政府や連邦政府、鉄道会社、地方自治体と連携してプロジェクトを推進

➡ プロジェクトの推進には関係機関・企業との連携が重要。
港湾管理者や運営会社が調整役を担っていく！

ご清聴ありがとうございました